

S a n G i

継続研究

2年目

職業に関する教科における学習評価の実践研究
— 指導と評価の一体化に向けて —

令和3年度 産業教育班 共同研究

新垣	安之	兼次	あかね	上唐	由紀子
塩浜	浄	佐久本	厚	屋宜	督
徳永	公男	安座間	健	長濱	陸史
具志堅	良彦	小原	満春	安座名	清子



2月5日

0 本時の目標

○職業に関する教科の効果的な学習評価を理解する

I はじめに

II 研究内容

III まとめ

IV 振り返り

職業教育

研究

1

発表者

研究

発表者

研究

発表者

I はじめに

令和4年度 高等学校学習指導要領

第1款 高等学校教育の基本と教育課程の役割

「生きる力を育む」資質・能力の育成＝三つの柱

- (1) 知識及び技能の習得
- (2) 思考力、判断力、表現力等の育成
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養

3 観点に
整理

第3款 教育課程の実施と学習評価

- (1) **主体的・対話的で深い学び**の実現
 - ① 内容や時間などのまとまりで実施
 - ② 生徒主体の授業改善の実施
- (2) **学習評価の充実**
 - ① 生徒の学習意欲の向上
 - ② 教師の指導改善

指導と評価の
一体化

R 2 共同研究「職業に関する教科における学習評価の研究」

学習評価に関する課題とその改善に向けた調査研究

1. 研究成果

(1) 学習評価に関する資料作成

○学習評価の在り方 ○評価規準の設定 ○観点別評価

(2) 指導と評価が一体となる授業を実現する見取り

- ① 教師が生徒を見取る規準（評価）を明確化
- ② 生徒の学習活動の「表れ」を、
教師が「見取り＝評価」につなげる（学習意欲の向上）
- ③ 教師の評価を「授業改善」につなげる（指導改善）

2. 研究課題

○観点別評価に影響を及ぼす方法

- ① 観点「思考力・判断力・表現力等」は評価方法が曖昧
※「思考・判断・表現」の評価方法に関する支援が必要

令和3年度 産業教育班 共同研究

職業に関する教科における学習評価の**実践研究**

－指導と評価の一体化に向けて－

1 学習評価の在り方と実態の把握（1年目）

(1) 理論研究＝観点別学習状況の評価

(2) 実態調査＝観点「思考力・判断力・表現力等」支援

2 観点別学習状況の評価の充実（2年目・今年度）

(1) **資料**「各教科における指導と評価の一体化」

(2) **実践研究**による観点別学習状況の評価への取組

評価の充実 = 指導と評価の一体化

教師の指導改善



生徒の学習意欲の向上

○評価資料による支援

○観点評価方法の実践

○学習目標への共有

○学習活動の明確化

共同研究 — 指導と評価の一体化に向けて —

令和2年度

令和3年度

「学習評価の**研究と調査**」

「学習評価の**実践研究**」

1. 研究成果

(1) 学習評価の資料を精査

- 学習評価の在り方
- 評価規準の設定
- 観点別評価

(2) 指導と評価の一体化には 授業(評価)の見取りが有効

- ①生徒を見取る規準(評価)
- ②学習活動の「表れ」を、
教師が「見取る(評価)」

2. 研究課題

- 観点「思考・判断・表現」
は評価方法が曖昧

1. 研修用資料

- 資料「各教科における指導
と評価の一体化」
⇒研究協力員
⇒教育課程研修会

2. 研究授業

- 観点別学習状況の評価
- (1) 専科における学習評価
⇒効果的な評価と見取り
⇒「思考・判断・表現」評価
- (2) 授業研究
⇒指導と評価の振り返り
⇒授業改善につなげる

2月5日

職業教育研究

2
ページ

発表者

職業教育研究

0 本時の目標

○職業に関する教科の効果的な学習評価を理解する

I はじめに

○資質・能力の三つの柱

○指導と評価の一体化

共同研究 (R2)

学習評価の研究・実態
「見取り・評価方法」

II 研究内容

III まとめ

IV 振り返り

2月5日

高等学校
教員
研修

2
ページ
発表者

高等学校
教員
研修

Ⅱ 研究内容

1 資料「各教科における指導と評価の一体化」 について

2 実践研究による観点別学習状況の評価への
取組みについて

3 各教科・科目における実践研究について

4 実践研究における指導と評価の一体化
について

1 資料「各教科における指導と評価の一体化」について
資料は、

- ・ 専門学科が取り組む指導と評価の一体化について
 - ・ 教師に理解やすい内容
- 専門学科共通 → 各教科（農業・工業・商業）

項目は、

第1章 職業教育を主とする専門学科 -共通資料-

I 専門学科における指導と評価の一体化

II 参考資料（年間指導計画、評価の総括など）

第2章 職業教育を主とする専門学科 -各教科-

III 各教科に関する事例について

IV 協議課題提出用データ

令和3年度高等学校教育課程研修会

研修Ⅰ オンデマンド研修動画
-職業教育を主とする専門学科 農業・工業・商業編-
第1章 高校 【農業・工業・商業】 共通

研修Ⅱ 教科ごとの検討・協議
-専門学科 各科-
第2章 高校 教科ごとの検討・協議

教育庁県立学校教育課
県立総合教育センター

第2章 高校 【職業教育を主とする専門学科】

— 農業科 —

令和3年度高等学校教育課程研修会
オンデマンド研修動画

I 資料「各教科における指導と評価の一体化」について

(I) 資料「職業教育を主とする専門学科 共通資料」

第1章 職業教育を主とする専門学科 共通資料

I 専門学科における指導と評価の一体化

ねらい

- ・ 新学習指導要領の読み取り方
- ・ 産業教育の資質・能力の育成
- ・ 観点別学習状況の評価
- ・ 評価と評定

II 参考資料

ねらい

- ・ 例示による学習活動の指導と評価

① 資料：学習評価の充実を目指して

I 専門学科における指導と評価の一体化について

1 学習評価の充実を目指して



(1) 内容のまとめり〔指導項目〕ごとの評価規準

各学校は、学習評価を行う際の評価規準を作成する。「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、各学校の実態を考慮し、単元や題材など内容や時間のまとめりを見通した評価規準の作成が大切である。

(2) 観点ごとの評価規準

観点別学習状況の評価とは、学校における生徒の学習状況を複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析的に捉える評価のことである。観点ごとの評価規準は、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものである。

3) 組織的・計画的な学習評価

学習評価の取り組みについては、教師によって学習評価の方針が異なり、生徒の学習改善や教師の指導改善につながらないことがないよう、教員個人ではなく、学校全体で取り組むことが重要である。

Point①
3つの
重要事項



・評価の捉え方
・観点の在り方
・組織的な取組

図1 I-1 学習評価の充実を目指して



② 資料：指導と評価のポイント

Point② 評価規準と見取り

- ・育成する資質・能力を明確にした評価規準
- ・学習活動における具体的な生徒の表われ
- ・明確な指導方法と具体的な評価方法

4 指導と評価のポイント【評価規準と見取り】

(1) 指導（授業実践）のポイント【評価規準】

産業教育においては三つの柱に沿った資質・能力を育成するため、各教科に関連する職業における具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習（「3 資質・能力を育成する学びの過程」）の充実が求められ、学習内容においては「育成を目指す資質・能力が生徒に身に付いたかを判断する具体的な『評価規準』の設定が大切である。

(2) 評価（評価活動）のポイント【表れと見取り】

学習評価は、「子どもの学習活動における具体的な『評価規準（表れ）』を教師が『見取る』ことが大切である。観点別学習状況の評価において、生徒の「表れ」を、教師が「見取り」、生徒の「学習改善」につなげることが重要である。

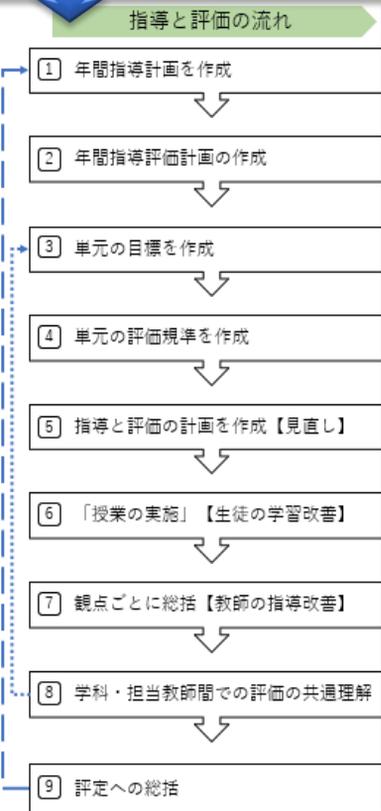
③ 資料：学習指導と評価計画

7 学習指導と評価計画

Point③

各項目の具体的な活用

○ 指導と評価の流れ



解説・留意点

主に「年間指導計画」「年間指導評価計画」

- ① 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- ② 学校及び学科の目標、育成する生徒像を踏まえ、観点ごとの評価計画を作成する。
参照: 1 学習評価の充実を目指して
参照: 2 科の目標と評価の観点及びその趣旨(1)

主に「学習指導要領」

- ① 「年間指導計画」「年間指導評価計画」等を踏まえ、単元目標(学習の目的)を作成する。
- ② 生徒の志趣、前題材までの学習状況を踏まえ、単元(観点)の評価規準を作成する。
参照: 2 科の目標と評価の観点及びその趣旨(2)
参照: 3 産業教育の資質・能力を育成する過程

- ③ ②と④を踏まえた評価規準における具体的な評価場面や評価方法等を作成する。
参照: 4 指導と評価のポイント
参照: 8 授業実践と評価活動
参照: 9 評価の観点に適した評価方法
参照: 10 観点別学習状況の評価方法
- ④ 「②」【授業の実施】では、評価規準に沿って「生徒の学習改善につなげる」「指導に生かす評価」(形成的評価)を行う。
- ⑤ 「④」【観点ごとの総括】で授業を振り返り、「教師の指導改善」につなげる。
※ ②~④を繰り返して、指導と評価における教育活動の質を向上させることが大切である。

- ⑥ 単元などのまとまりごとに、集めた評価資料(成果物やワークシート、ルーブリック等)やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価を行う。
- ⑦ 評価に関しては、学科や担当教師間で共有することで評価の偏りをなくし、学校全体で組織的に学習評価の改善につなげる。
参照: 5 観点別学習状況の評価と評定における役割
参照: 6 観点別学習状況の評定への総括

○ 解説・留意点

7 学習指導と評価計画

指導と評価の流れ

解説・留意点

5 指導と評価の計画を作成【見直し】

6 「授業の実施」【生徒の学習改善】

7 観点ごとに総括【教師の指導改善】

8 学科・担当教諭間での評価の共通理解

9 評定への総括

③ ③と④を踏まえた評価規準における具体的な評価場面や評価方法等を作成する。

参照:4 指導と評価のポイント

参照:8 授業実践と評価活動

参照:9 評価の観点に適した評価方法

参照:10 観点別学習状況の評価方法

④ 「6『授業の実施』」では、評価規準に沿って「生徒の学習改善につなげる『指導に生かす評価』（形成的評価）」を行う。

⑤ 「7『観点ごとの総括』」で授業を振り返り『教師の指導改善』につなげる

※⑤～⑦を繰り返し、指導と評価における教育活動の質を向上させることが大切である。

⑥ 単元などのまとまりごとに、集めた評価資料（成果物やワークシート、ルーブリック等）やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価を行う。

⑦ 評価に関しては、学科や担当教師間で共有することで評価の偏りをなくし、学校全体で組織的に学習評価の改善につなげる。
参照:5 観点別学習状況の評価と評定の役割
参照:6 観点別学習状況の評定への総括

図3 I-7 学習指導と評価計画

1 資料「各教科における指導と評価の一体化」について

(2) 資料「職業教育を主とする専門学科 -各教科-

第2章 職業教育を主とする専門学科 各教科

Ⅲ 各教科・科目に関する事例について

ねらい

- ・ 学習評価の基本的な考え方や事例
- ・ 学習評価の具体的な学習評価の理解

Ⅳ 協議課題提出用エクセルデータ

ねらい

- ・ 実施科目の学習評価を作成

① 資料：授業実践と評価活動

(1) 授業実践と評価活動

① 学習評価の進め方

① 「〔指導項目〕
ごとの評価規準」
を作成する

② 単元(題材)の
目標を作成する

③ 単元(題材)の
評価規準を
作成する

④ 指導と評価の
計画を立てる

⑤ 授業
(指導と評価)
を行う

⑥ 観点ごとに
総括を行う

Point①
評価の流れ図



・学習評価の
手順を、6つ
の工程で示
す

科目「農業と環境」
〔指導項目〕

- (1) 「農業と環境」とプロジェクト学習
- (2) 暮らしと農業
- (3) 農業生産の基礎
- (4) 農業と環境のプロジェクト
- (5) 学校農業クラブ活動

② 資料：評価の観点に適した評価方法

2. 各教科・科目に関する事例

④指導と評価の計画を立てる

Point②

評価の観点
のバランス



・バランスの
良い学習評
価を計画

評価の観点			評価資料・評価方法
知	思	態	
○			<ul style="list-style-type: none"> ■ワークシート ← 形成的評価 ■行動観察 ← 形成的評価 ■ルーブリック ← 総括的評価
○	○		<ul style="list-style-type: none"> ■ワークシート ← 形成的評価 ■行動観察 ← 形成的評価 ■ノート ← 総括的評価 ■レポート ← 総括的評価

Point③

評価方法
の例示



・評価による
指導改善や
学習意欲の
向上

日頃の授業における評価方法

- **形成的評価**：教師の指導改善や生徒を伸ばすために行う評価
- **総括的評価**：記録を残し学習の判定に活用する評価

③ 資料：観点別学習状況の評価方法

Point④ 具体的な 評価事例

⑤ 授業（指導と評価）を行う

【参考例】評価の事例

この授業で「生徒に身に付けさせたい学習内容」が規準となるため

「B:おおむね満足できる」

評価方法について《見取りの視点》

- * 基本的な学習態度は「B:おおむね満足できる」
- * 支援が必要な生徒は「C:努力を要する」→**具体的な手立てを考える**
- * 学習状況が質的な高まりや深まりをもっている生徒は「A:十分満足できる」

・評価「B」が
評価規準

・生徒の身に
つけさせたい
学習内容

生徒に身に付けさせたい学習内容

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法 ・ 評定
	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する(具体的な手立)	
【知識・技術】 ビジネスに対する心 構えについて実務に 即して理解している とともに、関連する 技術を身に付けてい る。	基本的なビジネスマ ナーについて、実務に 即して よりよく実践で きるよう 理解すると ともに、関連する技術を 説明できる程度に確実 に 身に付けている。	基本的なビジネスマ ナーについて、実務に 即して理解するととも に、関連する技術を身 に付けている。	教科書によって基本 的なビジネスマナーにつ いてまとめさせ、関連 する技術の 習得に努め させる。	行動観察 ワークシート ペーパーテスト

図6 Ⅲ2(3)⑤ 授業(指導と評価)(商業)

④ 協議課題について

Point⑤

共通項目・評価活動

・項目を共通にして、産業教育の視点を共有

・内容は、各教科の特性合わせて理解しやすい内容

項目	内容		
	農業	工業	商業
協議課題	学習評価の進め方の①～④に沿った「単元計画・評価計画」の作成		
課題単元	① 指定 科目「農業と環境」の〔指導項目〕(2)暮らしと農業	1学年で履修する科目	科目「ビジネス基礎」の〔指導項目〕(5)企業活動
	② 自由 1学年で履修する科目		
作成内容 ・ 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の特性を生かした単元設定 ・学科で協働して取組み、学科ごとに2つの単元計画を作成 ・次年度に実践できる内容 ・提出様式を参照して作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の特性を生かした単元設定 ・学科で協働して取組み、学科ごとに単元計画を作成 ・次年度に実践できる内容 ・提出様式を参照して作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科内で協議して取組む ・次年度に実践できる内容 ・提出様式を参照して作成

表2 教育課程研修会協議課題(農業・工業・商業)

2月5日

Ⅱ 研究内容

1 資料「各教科における指導と評価の一体化」
について

2 実践研究による観点別学習状況の評価への
取組みについて

3 各教科・科目における実践研究について

4 実践研究における指導と評価の一体化
について

実践
研究
教育

実践
研究

5

発表者

発表者

実践
研究

実践
研究

2 実践研究による観点別学習状況の評価への取組み

(1) 研究協力員

○学校の地域性や学科の特色

○教育課程に関する知識も豊富な**中堅教諭**

(2) 科 目

○学校・学科の特色ある科目

○学習評価に**実験・実技**がある

学科	学校名	学科名	科 目	研究協力員	担当主事
農 業	南部農林高校	食料生産科	食品加工 (学校設定科目)	安座間 健	上 唐 由紀子
		生物資源科	農業と環境	徳 永 公 男	兼 次 あかね
工 業	那覇工業高校	電 気 科	実習(電気)	具志堅 良 彦	佐久本 厚
	南部工業高校	機 械 科	機械工作	長 濱 隆 史	塩 浜 浄
商 業	那覇商業高校	国際経済科	ビジネス基礎	小 原 満 春	新 垣 安 之
				安座名 清 子	

表3 研究授業における研究協力員と科目及び担当主事について

2 実践研究による観点別学習状況の評価への取組み

(3) 学習評価に関する資料について

① 学習指導案の作成

ア 学習計画の留意点

○学習指導（評価規準）と生徒の評価（見取り）

イ 観点別学習状況の評価（R2年度研究の課題）

○評価の観点：思考力・判断力・表現力等

② 年間指導計画の作成

○基本フォームにより指導内容を共通

ア 特記事項（標準単位数や他の科目での履修）

イ 科目目標、評価の観点の欄

ウ 指導内容と教材（教科書のページ）

「指導と評価の整合性」の見える化

2 実践研究による観点別学習状況の評価への取組み

(4) 実践研究に向けて

※班内研究会議の取組み

① 学習指導案による指導と評価の共通理解

ア 科目・単元目標

イ 単元評価計画（3観点のバランス）

ウ 本時の目標を達成する指導と評価

② 授業研究会の内容

ア 観点別の学習指導と評価について

イ 授業展開（生徒の見取り）について

③ アンケート結果による研究授業の分析

ア 対象：研究協力員、参加教諭、生徒、主事

イ 質問項目：教師16問、生徒11問、主事18問

2月5日

課程
標準
教育
研究

6

発表者

発表者

課程
標準
教育
研究

Ⅱ 研究内容

- 1 資料「各教科における指導と評価の一体化」
について
- 2 実践研究による観点別学習状況の評価への
取組みについて
- 3 各教科・科目における実践研究について
- 4 実践研究における指導と評価の一体化
について

3 各教科・科目における実践研究について

126

実践科目の分析

① 基本情報：科目, 単元, 本時の目的(観点), 授業形態

※共通の観点 = 思考・判断・表現

② 学習指導の取組

※つなぐ9つのポイント

③ アンケート結果 (生徒用のみ)

※本時に身についた観点

指導と評価の一体化へつなげるキーワード

○生徒の学習意欲の向上につなぐ

○教師の指導改善につなぐ

つなぐ9つのポイント

○生徒の学習意欲の向上

- つなぐA 多面的(記述、口頭、図表など)な見取りの工夫
- つなぐB 判断基準を踏まえた評価のポイント(ワークシートなど)
- つなぐC 生徒との目標共有(評価規準)(ワークシート、ルーブリック)
- つなぐD 学んだことを関連させ、考え、深める問いの工夫
- つなぐE 計画的(継続的・段階的)な
生徒の変容(学習意欲の高まり)の取組

○教師の指導改善

- つなぐF タイムマネジメントにより
「まとめ」「振り返り」を行う完結型の授業
- つなぐG 各観点がつながる学習指導による効果的な学習活動
- つなぐH 個別学習から協働学習につなげる
主体的・対話的で深い学び
- つなぐI 教員間の評価の共有(ワークシート、ルーブリックなど)

3 各教科・科目における実践研究について

1/17

(1) 農業科 ①基本情報

項目	実践①	実践②
科目	農業と環境	生産加工 (学校設定科目)
単元	作物をとりまく環境 とその管理	食材を活用したリ ジナルジャムの開発
本時の 目的 (観点)	○思考・判断・表現 ○主体的に学習に 取り組む態度	○思考・判断・表現 ○主体的に学習に 取り組む態度
授業 形態	実技(座学)	実技(座学)
教材	ワークシート	ワークシート、食材

(1) 農業科 ②学習指導の取組

◇良い点

項目	実践①	実践②
思考・判断・表現の学習指導	実験結果をまとめ、グループで考察させ、ワークシートにまとめた内容での見取りができた。	実際に素材を使用することで、既習事項の知識・技術を踏まえた思考力を導き、判断させる学習活動は有効であった。
評価	ワークシートなどの書く活動（言語活動）は、生徒一人一人の思考（評価）が読み取りやすい。	教材（ワークシートや実習記録簿）の役割（学習活動）を明確（分ける）にすることにより、観点の評価（見取り）が実施しやすい。
授業展開	生徒への連続的な問いにより思考を深めていた。	グループでの意見交換は活発に行えており、既習知識の活用も見られる。

(1) 農業科 ②学習指導の取組

◇良い点

項目	実践①	実践②
思考・判断・表現の学習指導	◇つなぐA 多面的見取り	◇つなぐD 問いの工夫
評価	多面的(記述、口頭、図表など)な見取りの工夫	学んだことを関連させ、考え、深める問いの工夫
授業展開		

(1) 農業科 ②学習指導の取組

◇良い点

項目	実践①	実践②
思考・ 判断・ 表現 の学習 指導	◇つなぐA 多面的見取り	◇つなぐD 問いの工夫
評 価	◇つなぐA 多面的見取り	◇つなぐA 多面的見取り
授業展開	◇つなぐD 問いの工夫	◇つなぐA 多面的見取り

(1) 農業科 ②学習指導の取組

◆課題

項目	実践①	実践②
思考・判断・表現の学習指導	思考の場面をどのように見取るのか、その手段と授業を実践しながら、それが実際に可能なのか非常に難しい。	「思考」に関する記述の評価は、評価項目が複数含まれると採点に時間を多く要するため、継続が難しい。
評価	明確な判断基準と丁寧な見取りが必要である。	生徒へ評価規準を示すことで、生徒の学習活動を促進が期待できる（ただし、教材の精選が必須）。
授業展開	授業の初めに評価規準を生徒と共有する。	学習内容が多く、話し合いや考える時間があっても、書く時間がなかった。

(1) 農業科 ②学習指導の取組

◆課題

項目	実践①	実践②
思考・判断・表現の学習指導	◆つなぐE 計画的な 生徒の変容	◆つなぐE 計画的な 生徒の変容
評価	計画的(継続的・段階的)な 生徒の変容(学習意欲の高まり) の取組が課題	
授業展開		

(1) 農業科 ②学習指導の取組

◆課題

項目	実践①	実践②
思考・判断・表現の学習指導	◆つなぐE 計画的な 生徒の変容	◆つなぐE 計画的な 生徒の変容
評価	◆つなぐB 評価のポイント ○判断基準	◆つなぐC 目標の共有 ○評価規準
授業展開	◆つなぐC 目標の共有 ○評価規準	◆つなぐB 評価のポイント ○判断基準

(1) 農業科 ③アンケート結果 (生徒用58名)

質 問		A: 思う		B: やや思う		C:あまり 思わない		D: 思わない	
		数	%	数	%	数	%	数	%
㊦ 本日の授業で、3つの力(3観点)はどの程度身に付きましたか？									
	・知識・技術	20	37.0	32	59.3	2	3.7	0	0.0
本時	○思考・判断・表現力	22	40.7	29	53.7	3	5.6	0	0.0
本時	○主体的な学習態度	27	<u>50.0</u>	23	42.6	4	7.4	0	0.0
①	授業は理解しやすかったか	36	<u>66.7</u>	17	31.4	1	1.9	0	0.0
②	学習活動は、満足できたか	32	<u>59.3</u>	20	37.0	2	3.7	0	0.0

④ 観点別学習状況の評価の取組について

農業科の座学を含む実技の学習では、ワークシート等を活用した「思考・判断・表現を促す学習」と協働的なグループ活動による「主体的な学習への取組み」は、「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の観点の学習において効果的であることが分かった。

3 各教科・科目における実践研究について



(2) 工業科 ①基本情報

項目	実践③	実践④
科目	機械工作	実習（電気科）
単元	各種の工作法	シーケンス制御
本時の 目的 (観点)	○知識・技術 ○思考・判断・表現	○知識・技術 ○思考・判断・表現
授業 形態	座学	実技
教材	ワークシート、ICT	ワークシート、装置

(2) 工業科 ②学習指導の取組

◇良い点

項目	実践③【座学】	実践④【実技】
思考・判断・表現の学習指導	「思考・判断・表現」の育成を促すため、課題を「金型のメリット・デメリット」とし、学習活動を明確にした。	導入でルーブリックを生徒に示すことで、生徒が評価を意識した授業ができた。
評価	ワークシートにより、生徒の学習目的(観点)の達成に向け、学習活動を導くことができた。	実技課題は、その場の指導(形成的評価)が、生徒の学習活動の支援が効果的だった。
授業展開	いつもより(資料と合わせて)ワークシートの内容について考えることができた。	授業展開を知識・技術と思考・判断・表現の時間と観点を分けて展開することで、学習活動が明確になった。

(2) 工業科 ②学習指導の取組

◇良い点

項目	実践③【座学】	実践④【実技】
思考・判断・表現の学習指導	学んだことを関連させ、考え、深める問いの工夫	計画的(継続的・段階的)な生徒の変容(学習意欲の高まり)の取組
評価		
授業展開	◇つなぐD 問いの工夫	◇つなぐE 計画的な生徒の変容

(2) 工業科 ②学習指導の取組

◇良い点

項目	実践③【座学】	実践④【実技】
思考・ 判断・ 表現 の学習 指導	◇つなぐB 評価のポイント ○判断基準	◇つなぐC 目標の共有 ○評価規準
評 価	◇つなぐD 問いの工夫	◇つなぐD 問いの工夫
授業展開	◇つなぐD 問いの工夫	◇つなぐE 計画的な 生徒の変容

(2) 工業科 ②学習指導の取組

◆課題

項目	実践③【座学】	実践④【実技】
思考・判断・表現の学習指導	生徒に 思考・判断させ、表現させるまでの問いかけ、ヒントの工夫が必要である。	ワークシート内の「 教師の確認（見取り） 」の項目が少し足りなかった。
評価	発問やワークシートの問いに対して、 時間の関係で教師が答えてしまった。	ワークシートの 評価規準 「思考・判断・表現」の「思考」「判断」「表現」の見取りが 明確になっていない。
授業展開	ワークシートは 項目が多く、思考を深める時間が少なかった。	授業計画が うまくいかなかったため、タイムマネジメントを意識した授業が必要である。

(2) 工業科 ②学習指導の取組

◆課題

項目	実践③【座学】	実践④【実技】
思考・判断・表現の学習指導	判断基準を踏まえた評価のポイント(ワークシートなど)が課題	タイムマネジメントにより「まとめ」「振り返り」を行う完結型の授業が課題
評価		
授業展開	◆つなぐB 評価のポイント ○判断基準	◆つなぐF まとめ・振り返り ○タイムマネジメント

(2) 工業科 ②学習指導の取組

◆課題

項目	実践③【座学】	実践④【実技】
思考・ 判断・ 表現 の学習 指導	◆つなぐD 問いの工夫	◆つなぐB 評価のポイント ○判断基準
評 価	◆つなぐF まとめ・振り返り ○タイムマネジメント	◆つなぐG 観点をつなぐ ○学習指導
授業展開	◆つなぐB 評価のポイント ○判断基準	◆つなぐF まとめ・振り返り ○タイムマネジメント

(2) 工業科 ③アンケート結果 (生徒用28名)

質 問		A: 思う		B: やや思う		C:あまり 思わない		D: 思わない	
		数	%	数	%	数	%	数	%
㊦ 本日の授業で、3つの力(3観点)はどの程度身に付きましたか？									
本時	○知識・技術	14	50.0	11	39.3	3	10.7	0	0.0
本時	○思考・判断・表現力	11	39.3	11	39.3	4	14.3	2	7.1
	・主体的な学習態度	14	50.0	11	39.3	3	10.7	0	0.0
①	授業は理解しやすかったか	19	67.9	8	28.5	1	3.6	0	0.0
②	学習活動は、満足できたか	15	53.6	9	32.1	3	10.7	1	3.6

④ 観点別学習状況の評価の取組について

工業科の**座学**と**実技**の学習では、**ワークシート**や**実技**による「**思考・判断・表現**」の学習活動を「**主体的な学習**」として捉えていることが分かる。このことから、生徒の「**思考・判断・表現**」の学習活動から「**主体的な学習**」を見取る評価(学習活動)が効果的であることが推測される。

3 各教科・科目における実践研究について

1709

(3) 商業科 ①基本情報

項目	実践⑤
科目	ビジネス基礎
単元	大項目「第5章 企業活動」 小項目「ウ 資金調達」
本時の目的 (観点)	○思考・判断・表現
授業形態	座学
教材	ワークシート、教材(協働学習)

(3) 商業科 ②学習指導の取組 ◇良い点

項目	実践⑤
思考・判断・表現 の学習指導	<ul style="list-style-type: none">○資金調達の方法、種類について調べ学習 →グループの話し合い・考えをまとめる →発表→質疑応答の一連の取組による見取りが良かった。○発表質問後、教師からの更なる問いかけで更に思考が深まる。
評 価	<ul style="list-style-type: none">○発表用の教師用評価シートの作成（ルーブリック評価）。○導入時に本時の評価規準を生徒に示し確認したこと。
授業展開	<ul style="list-style-type: none">○思考ツール（教材）を活用し、思考・判断・表現を促す効果的な学習活動。

(3) 商業科 ②学習指導の取組 ◇良い点

項目	実践⑤
思考・判断・表現 の学習指導	<p>生徒との目標共有(評価 規準)(ワークシート、ルブリック)</p>
評価	<p>◇つなぐ○ 目標の共有 ○評価規準</p>
授業展開	<p>○思考ツール(教材)を活用し、思考・判断・表現を促す効果的な学習活動。</p>

(3) 商業科 ②学習指導の取組 ◇良い点

項目	実践⑤
思考・判断・表現 の学習指導	◇つなぐA 多面的な見取り ◇つなぐD 問いの工夫
評価	◇つなぐC 目標の共有 ○評価規準
授業展開	◇つなぐA 多面的な見取り

(3) 商業科

②学習指導の取組

◆課題

項目	実践⑤
思考・判断・表現 の学習指導	グループワークの際、担当を決めて話し合いやまとめ(学習活動)の流れを把握することで評価につなげる。
評 価	○複数担当者との評価規準のすり合わせにより、生徒を見とる必要があった。 ○行動観察による見取り方法の検討。
授業展開	振り返り、まとめの時間の確保(タイムマネジメント)。

(3) 商業科

②学習指導の取組

◆課題

(3) 商業科

②学習指導の取組

◆課題

項目	実践⑤
思考・判断・表現 の学習指導	◆つなぐB 評価のポイント ○判断基準
評 価	◆つなぐI 教師間の評価の共有 ◆つなぐA ◆つなぐB 多面的な見取り 評価のポイント○判断基準
授業展開	◆つなぐF まとめ・振り返り ○タイムマネジメント

(3) 商業科 ③アンケート結果（生徒用38名）

質 問	A： 思う		B： やや思う		C：あまり 思わない		D： 思わない	
	数	%	数	%	数	%	数	%
㊦ 本日の授業で、3つの力(3観点)はどの程度身に付きましたか？								
・知識・技術	30	78.9	8	21.1	0	0.0	0	0.0
本時 ○思考・判断・表現力	24	63.2	14	36.8	0	0.0	0	0.0
・主体的な学習態度	22	57.9	14	36.8	2	5.3	0	0.0
㊦授業は理解しやすかったか	32	84.2	4	10.5	2	5.3	0	0.0
㊦学習活動は、満足できたか	26	68.5	11	28.9	1	2.6	0	0.0

④ 観点別学習状況の評価の取組について

商業科の座学において、ワークシートなどの教材やグループ活動・発表を「思考・判断・表現」と関連させた授業展開は、「知識・技術」や「思考・判断・表現」の観点の学習に効果的であるだけでなく、「主体的な学習」につながることも推測される。

3 各教科・科目における実践研究について

1/10

(4) 指導と評価へつなげる**実践研究のまとめ** (研究協力員とセンター主事の振り返り)

実践研究 = つなぐ9つのポイントで分析

② 学習指導の取り組み

- ・ 学習指導 (観点別 (思考・判断・表現))
- ・ 評価 (良い点、課題)
- ・ 授業展開 (生徒の学習意欲、教師の指導改善)

①観点別【思考・判断・表現】の学習指導について

良い点の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ (生徒の学習意欲の向上)					つなぐ (教師の指導改善)				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	

つなぐA 多面的(記述, 口頭, 図表)な見とりの工夫
 →各教科(農業・工業・商業)の学習指導は十分取り組めている

合計	-	8	3	1	4	3	0	1	0	0
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

課題の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ (生徒の学習意欲の向上)					つなぐ (教師の指導改善)				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	

つなぐE 計画的(継続的・段階的)な生徒の変容(学習意欲)
 →観点別(思考・判断・表現)の継続的な指導とその見取り

合計	-	0	3	2	1	4	0	0	0	0
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

②評価について

良い点の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ (生徒の学習意欲の向上)					つなぐ (教師の指導改善)				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	

つなぐB 判断基準を踏まえた評価のポイント
 →ワークシートやルーブリックなどを活用した評価は効果的

合計	-	1	3	1	2	0	0	0	0	1
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

課題の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ (生徒の学習意欲の向上)					つなぐ (教師の指導改善)				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	

つなぐB 判断基準を踏まえた評価のポイント(ワークシート等)
 →判断基準を踏まえた評価のポイント(焦点化・明確化)

合計	-	1	3	1	0	1	0	2	2	1
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

③授業展開（課題）について

各教科	授業形態	つなぐ (生徒の学習意欲の向上)					つなぐ (教師の指導改善)			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
農業①	実+座				1	1				
農業②	実+座	1	1				1	2		
工業①	座学		1		1		1			
工業②	実技					1	1			
商業	座学				1		1			
合計	—	1	2	0	3	2	4	2	0	0

生徒の学習意欲の向上の「つなぐ」

つなぐD 学んだことを関連させ、考え、深める問いの工夫
→生徒への発問に工夫が必要

教師の指導改善の「つなぐ」

つなぐF タイムマネジメントによる「まとめ・振り返り」
を行う「完結型」の授業
→授業におけるタイムマネジメントがうまくいっていない

2月5日

Ⅱ 研究内容

- 1 資料「各教科における指導と評価の一体化」
について
- 2 実践研究による観点別学習状況の評価への
取組みについて
- 3 各教科・科目における実践研究について
- 4 実践研究における指導と評価の一体化
について（取り組みのまとめ）

課程
標準
教育
課程

11
ページ

発表者

課程
標準
教育
課程

4 実践研究における指導と評価の一体化について

1/11

(1) 「多面的な見取り」による学習指導【つなぐA】

観点（思考・判断・表現）の学習指導については、
「多面的な見取りによる指導」が効果的である。

例えば、

- 観点を「思考」「判断」「表現」の3つで指導(評価)
- 言語活動で思考を促す発問や表現を深める問いの工夫
- ワークシートやパフォーマンス評価などの見取り

取り組む注意点、

- 「具体的な**評価規準**（ABC）」を設定すること
- 見取る評価のポイント（**判断基準**）を明確にして、生徒の「段階的・継続的な学習活動」を行うこと

4 実践研究における指導と評価の一体化について

(2) 「判断基準」を踏まえた評価【つなぐB】

観点(思考・判断・表現)の評価は、「具体的な判断基準を踏まえた評価のポイント(評価BとAの違い)」が重要。

例えば、

- ワークシートやルーブリックなどの評価を明確化
- 既習事項を踏まえたパフォーマンス課題の掲示など

取り組む注意点、

- 判断基準の曖昧さや具体性に欠けていると、学習活動が本時の目標からズレた活動になりやすい。

4 実践研究における指導と評価の一体化について

(3) 「目標を共有する」授業【つなぐC】

観点(思考・判断・表現)の**授業展開**は、**生徒の学習活動**が多くなりがちであり**評価項目も増える傾向**にある。

授業で「**生徒と目標や評価規準を共有**」することで、教師の指導(活動)の意図が生徒に伝わり、生徒の自主性と行動が促されることから指導時間が圧縮されて、**結果的に時間のゆとり**が生まれる。

例えば、

○「**目標の共有**」で**生徒の自主的活動**を促す

取り組む注意点、

○**タイムマネジメント**による「**まとめ・振り返り**」を実施する「**完結型**」の授業を目指す

4 実践研究における指導と評価の一体化について

(4) 「関連させ・考え・深める」問いの工夫【つなぐD】

観点(思考・判断・表現)の効果を高めるには、生徒への「問い」により観点や学びを意図的につなげることが効果的である。

例えば、

- 既習事項とつなげる発問
- グラフや表をもとに考える発問
- 生徒の発言を深める発問

取り組む注意点、(発問で脱線しないこと)

- 学習活動をつなぐ問い
- 学習目標に導く問い

4 実践研究における指導と評価の一体化について

(5) 「生徒の変容」への取組【つなぐE】

観点(思考・判断・表現)の教育活動は、思考を判断や表現に継続的・段階的につなげる(考えさせる)ことが重要である。

例えば、生徒の思考を促すため、

- 既習事項と関連付けて考える
- 資料を比較させて考える

取り組む注意点、

- 思考させた生徒の活動(考えた結果)を、「判断」や「表現」で見取る

4 実践研究における指導と評価の一体化について

(6) 「観点をつなぐ」学習指導(主体的・対話的で深い学び)

資質・能力の3観点は互いに関連しており、**複数の観点をつなげた授業展開は、互いの教育効果を高めやすい。**

各観点を結びつける教育活動は「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）」が効果的である。

例えば、

○習得した知識・技術を思考・判断・表現を結びつける
→生きた知識・技術の活用

○思考・判断・表現の学習を新たな知識・技術につなげる

各観点を関連させる**効果的な活動**

○個人・ペア・グループ活動などの**協働学習**

○学習から発表までの**パフォーマンス課題**など

2月5日

職業教育研究

12
ページ

発表者

職業教育研究

0 本時の目標

○職業に関する教科の効果的な学習評価を理解する

I はじめに

- 資質・能力の三つの柱
- 指導と評価の一体化

共同研究 (R2)

学習評価の研究
「見取り・評価方法」

II 研究内容

- 観点別学習状況の評価への取組
- 実践研究からの指導と評価の一体化

つなぐ
9つの
ポイント

III まとめ

IV 振り返り

成 果

県立学校教育課

産業教育班

県立総合教育センター産業教育班



資料「各教科における指導と評価の一体化」

授業研究＝観点別学習状況の評価

○成果(効果)

○課題

○改善点

職業に関する教科における
観点別学習状況の評価の充実

- 効果的な評価：パフォーマンス課題やルーブリックなど
- 課 題：観点に沿った学習指導と学習活動
- 改 善 点：目標に準拠した評価規準・判断基準の設定

2 課 題

学校における評価活動

生徒の資質・能力の育成を
継続的・段階的に行う必要がある

教職員が年間指導計画や単元計画を見通して、
計画的に評価に取り組まなければならない

指導と評価を一体化につなげる取組

指導と評価をつなぐには、ルーブリックやパフォーマンス評価、ポートフォリオなどが効果的である。

評価活動の充実を図るため、**科目目標を達成する指導と生徒の実態に沿った評価**の支援が必要である。



2月5日

0 本時の目標

○職業に関する教科の効果的な学習評価を理解する

I はじめに

- 資質・能力の三つの柱
- 指導と評価の一体化

共同研究 (R2)

学習評価の研究
「見取り・評価方法」

II 研究内容

- 観点別学習状況の評価への取組
- 実践研究からの指導と評価の一体化

つなぐ
9つの
ポイント

III まとめ

- 学習評価＝パフォーマンス課題、ルーブリック
- 評価活動＝具体的な評価と精度を高めるの支援

IV 振り返り

○研究協力員の感想から

南部農林高等学校

生物資源科 徳永 公男 先生

これまでの生徒とは明らかに授業に取り組む姿勢・考えかたが違ってきていると感じる。

食料生産科 安座間 健 先生

教科の指導目標と指導項目を意識した単元計画や評価計画をより具体的にイメージし作成する必要性に気づかされた。

○研究協力員の感想から

南部工業高等学校

機械科 長濱 隆史 先生

「知識・技術」だけではなく、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の**観点をふまえた授業計画ができるようになった。**

那覇工業高等学校

電気科 具志堅 良彦 先生

すぐに教師に支援を求めていた**生徒が「評価規準」を理解することで、自分の力で学習に取り組もうとする姿勢が見られるようになった。**

○研究協力員の感想から

那覇商業高等学校 国際経済科

小原 満春 先生

安座名 清子 先生

指導と評価の一体化を意識した検証授業を通して、**観点別評価の意識が高まり**、勉強になった。

検証授業後も協力員2名で評価に関する話をするようになった。また、学科や教科の職員同士でも話題に上がることがあり、研究の先取りとしてもいい機会であった。

2月5日

職業教育

12
ページ

発表者

職業教育

0 本時の目標

- 職業に関する教科の効果的な学習評価の理解

I はじめに

- 資質・能力の三つの柱
- 指導と評価の一体化

共同研究 (R2)

学習評価の研究
「見取り・評価方法」

II 研究内容

- 観点別学習状況の評価への取組
- 実践研究からの指導と評価の一体化

つなぐ
9つの
ポイント

III まとめ

- 学習評価＝パフォーマンス課題、ルーブリック
- 評価活動＝具体的な評価と精度を高めるの支援

IV 振り返り◎評価活動は教育効果を高める

E N D

研修2年目

職業に関する教科における学習評価の実践研究

— 指導と評価の一体化に向けて —

令和3年度 産業教育班 共同研究

新垣	安之	兼次	あかね	上唐	由紀子
塩浜	浄	佐久本	厚	屋宜	督
徳永	公男	安座間	健	長濱	陸史
具志堅	良彦	小原	満春	安座名	清子